

平成 29 年度コビトハウス・オレンジハウス 自己評価実施結果報告書

1) コビトハウス自己評価実施結果について
調査概要

調査方法：郵送（保護者）または配布（職員）による無記名式質問紙調査

実施時期：平成 30 年 1 月 31 日～2 月 14 日

対象人数：保護者 32 名 職員 6 名

回収率：保護者 22 部（68.8%）職員 6 部（100%）

保護者評価の結果

保護者評価の高い項目は、⑨個人情報に十分注意しているか ④支援の内容について丁寧な説明がなされたか ⑧通信等で、活動概要や行事予定を子どもや保護者に対して発信しているか、であった。評価の低い項目は、⑪非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか、⑩緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか ⑤日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか、であった。

なお、自由記述欄の特記すべき内容としては、以下のような回答があった。

- ・子どもがとっても気に入っている
- ・郊外での活動も取り入れてほしい（可能であれば）。冬休みに図書館やオレンジハウスに行ったことが楽しかったみたいです。
- ・現在のスタッフ何人いるかわからないので異動の時など文書で知らせてほしいです。

職員評価の結果

職員評価の高い項目は、以下の 4 項目であっ

た。⑨アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか ⑩支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか ⑪日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか ⑫学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか

職員評価の低い項目は以下の 3 つであった。②職員の配置数は適切であるか ③事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか ④放課後児童クラブや児童館とお交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか

サービスの改善に向けて検討すべき課題

この結果を受けて職員で話し合ったところ、今後コビトハウスのサービス改善に向けて検討すべき課題として、(1)職員の情報など保護者向けの情報提供 (2)児童の活動プログラムの充実 の二つが挙げられた。

次年度自己評価実施で改善すること

保護者の回答のしやすさを考え、広報委員会で質問項目を精選し実施したことで円滑な調査が実施できた。しかしその結果、北海道指定通所支援の事業等の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例施行規則（平成 25 年規則第 38 号）に記載された「自己評価等を行う事項」のいくつかについて、質問項目から漏れが

あった。具体的には(2)従業員の勤務の体制及び資質の向上のための取組の状況(4)機関及び地域との連携、交流等の取組の状況(7)指定放課後等デイサービスの提供に係る業務の改善を図るための措置の実施状況、の3項目であった。次回評価実施時には必要事項を包括した調査を行うことが必要とされる。

また、児童発達支援の集団療育を利用する児童の保護者と、放課後等デイサービスを利用する児童の保護者の回答がまとめて集計・分析されたため、それぞれのサービスの満足度がわかりにくい結果となった。次年度は未就学児と放課後デイの結果を分けて集計するなど、より有効な自己評価調査の実施が望まれる。

2) オレンジハウス自己評価実施結果について 調査概要

調査方法：郵送(保護者)または配布(職員)による無記名式質問紙調査(無記名)
実施時期：平成30年1月31日～2月14日
対象人数：保護者30名 職員8名
回収率：保護者20部(66.7%) 職員7部(87.5%)

保護者評価の結果

保護者評価の高い項目は、以下の3つであった。⑤日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか⑨個人情報に十分注意しているか ⑬事業所の支援に満足しているか

一方で、保護者評価の低い項目は、①子どもの活動等のスペースが十分に確保され、安全への配慮がなされているか ⑥保護者に対して育児に関する助言等の支援が行われているか ⑩非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか、であった。

なお、自由記述欄の特記すべき内容としては、以下のような回答があった。

・新しいオレンジを見学していないのでよくわかりません。

・子どもから避難訓練をしたとか伝えてくれないので以前職員から(一度)聞いたことがあるが定期的に行っているかわからない。

・子どもが成長していく姿が見られているので非常に満足しています。ありがとうございます。

職員評価の結果

職員評価の高い項目は、以下の3項目であった。⑧職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか ⑩日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか ⑬個人情報に十分注意しているか

一方、職員評価の低い項目は、③事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか ⑮放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか ⑰事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか、であった。

サービスの改善に向けて検討すべき課題

この結果を受けて職員で話し合ったところ、今後オレンジハウスのサービス改善に向けて検討すべき課題として、職員の情報や避難訓練の実施など保護者向けの情報提供が挙げられた。

次年度自己評価実施で改善すること

保護者の回答のしやすさを考え、広報委員会で質問項目を精選し実施したことで円滑な調査が実施できた。しかしその結果、北海道指定通所支援の事業等の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例施行規則(平成25年規則第38号)に記載された「自己評価等を行う事項」のいくつかについて、質問項目から漏れがあった。具体的には(2)従業員の勤務の体制及び資質の向上のための取組の状況(4)機関及び

地域との連携、交流等の取組の状況(7) 指定放課後等デイサービスの提供に係る業務の改善を図るための措置の実施状況、の3項目であった。次回評価実施時には必要事項を包括した調査を行うことが必要とされる。

3) 総合的な評価

第一回の取り組みということで試行錯誤があり不十分な点もあったが、保護者にわかりやすい調査となるよう配慮がなされたことで概ね協力的な対応が得られ、回収率も満足のいくものとなった。

保護者・職員ともに評価の低い項目は以下の3つに分類されると思われる。1) 実施されているが情報共有が十分になされていなかったため評価が低い(例:避難訓練を実施していたが保護者への情報共有が行われていなかった)

2) 施設・設備的な限界があり対応が困難

(例:バリアフリー化) 3) 現状では未対応だが努力と工夫で今後克服可能な課題(例:標準化されたアセスメントの導入、地域との交流の活発化)

今回の評価を職員全体で共有し討議した結果、事業所内部での情報共有と外部への情報発信をより活発に行うこととし、次年度に向けての計画を策定している。今後も地域の保護者と子どもたちによりよいサービスを提供できるよう、事業所としての責任を果たしていきたい。

(文責:平成29年度合同会社コビトランド広報委員会 松田幸絵・河内千絵・鈴木ゆき)